

## サービス購入(POS)システム NO.17 <ヴァージニア州>

- Purchase of Services(POS)
- 事業を4つの単位に分け、委託先と協議して、支援期日、支援費単価、支給総額を決める

①職場でのアセスメント	-3/31	-\$1000	\$20/時間
②職場・職務の開拓	-6/30	-\$1500	\$20/時間
③職の選定・職場での支援	-1/31	-\$2000	\$25/時間
④継続的な支援	-6/30	-\$1500	\$20/時間

## 事業対応支援費 <メリット vs. デメリット>

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 成果に関わらず、一定額の委託支援費が保障されている</li> <li>■ 民間の非営利団体にとって、年間の事業費を見積もりやすい</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 支援の総量が増える傾向がある</li> <li>■ コストがかかるわりには、実績に反映されない</li> <li>■ 支援費の請求に必要な記録や手続きが多く、煩雑である</li> </ul> |
|--|--|

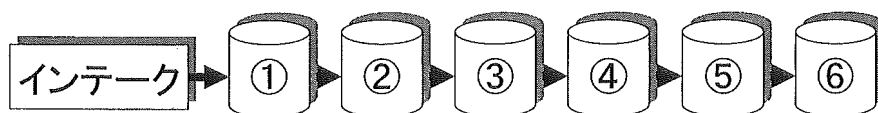
NO.18

## 実績対応支援費(Result-Based Funding)

- 支援の成果に基づいて支援費が支払われる
- いくつかの支援目標を設定し、支援に要した時間に関わらず、支援目標を達成した場合のみ、支援費が支払われる
- オクラホマ州、テネシー州、ロードアイランド州などで採用。オーストラリアでも採用。
- 事業対応支援費からの移行を図る州や、折衷型を採用する州も。

NO.19

## マイルストーン(到達点)システム ＜オクラホマ州＞



- 委託支援先と支援費総額を決める
- 発達障害のある人の場合、6つのマイルストーン(到達点)が設定されている
- 到達したら、支援費の一部が支給される
- オクラホマ大学と連携し、ジョブコーチ養成研修が無償で受けられる

NO.20

## 到達点と支給の割合

①アセスメントと計画作成	10%
②職場の決定	15%
③4週間の就労継続	15%
④10週間の就労継続	15%
⑤就労の安定継続	20%
⑥支援終了	25%

NO.21

## 実績対応支援費

### <メリット vs. デメリット>

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ 障害のある人本位の事業展開が見込まれる</li><li>■ 実績に見合った財源の分配ができる(対費用効果が高い)</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>■ ジョブコーチに質の高い援助技術が要求される</li><li>■ 実績がないところは、目標達成しやすい、支援しやすい障害のある人を選ぶ可能性がある</li></ul> |
|--|--|

NO.22

## システムの運用 ＜関連団体を巻き込む＞

### ＜委託支援システムの課題＞

- ①ニーズ以上に、支援の時間や総量がかかる可能性
- ②支援しやすい人に偏って支援する可能性

- ①「重度の障害のある人を支援する」  
連邦法に基づく定義と理念に立ち返る
- ②質の高い援助技術をもつジョブコーチを養成する  
＜関連団体がソフト面をバックアップ＞

NO.23

## 関連団体

APSE (サポード・エンプロイメント協会)

Association for Persons in Supported Employment

RRTC (リハビリテーション研究研修センター)

Virginia Commonwealth University  
Rehabilitation Research and Training Center

CARF (リハビリテーション認定協会)

Rehabilitation Accreditation Commission

NO.24

## CARFの役割

- ジョブコーチ事業を受託する非営利団体に対して、サービスの質の管理を行う
  
- 非営利団体は...
  - 事業受託するために、認可を受ける
  - 定期的な監査や指導を受ける
  - 基準を満たすサービスを実施する

NO.25

## まとめ

- ジョブコーチによる支援を非営利団体に事業委託する
- 地域にある非営利団体に拠点を置くことで、地域に根ざした就労支援が可能に
- 質の高い支援に支援費が支払われるシステム
  - 事業対応型支援費から実績対応支援費に
- 支援の質の管理、人材養成、方法論の普及など、システムの運用において、行政システム以外の関連団体の寄与が大きい

NO.26

## ◆ わが国におけるジョブコーチの実践

梅永 雄二（明星大学、分担研究者）

北海道から九州まで回らせていただきまして、そこで完璧なアメリカのようなジョブコーチシステムにのっとったものではないのですが、従来の施設での施設内作業から一歩外に出て、地域に参加してジョブコーチもどきのサポートをしているといった機関の紹介をさせていただければと思っています。【資料 No.2】 様々な機関がやっているのですが、分かりやすく私なりにまとめますと、一つは施設における就労支援ですね。こういった施設が様々なアレンジがなされて、NPO 法人をとったりしていますが、とりあえず従来の授産施設とか、小規模の福祉作業所あたりの実践ということでいくつかピックアップしています。一つは日本で最初にできた自閉症の成人施設である三重県のあさけ学園というところでの実践を報告させていただきます。2カ所目が、日本で二番目にできた自閉症の成人施設である富山のめひの野園というところ。そして有名な北海道の当別とか、函館にあります、正式にいうと上磯郡になるのですが、おしまコロニーというところ。今日も来られているのですが、東京の多摩市の AROMA という施設があります。ここも施設から一歩外に出て地域で働くことを目指すような試みがなされています。九州の宮崎では成人の重度の強度行動障害の更生施設であります白浜学園というところ。ここでも宮崎という地域に応じた就労支援がなされています。ルネスというのは兵庫県の姫路にあるのですけれども、総合福祉通園センターというのですか、そういったところで様々な地域の就労支援がなされています。そして福岡県の施設である春ヶ丘学園。ここは前から就労を目標とした施設だったのですが、ジョブコーチ的な発想を隣の北九州療育センターとか、小池学園という、いろいろな専門の機関と連携をして就労に絞ってサポートされています。こういった施設における就労支援以外に就労支援関係機関におけるジョブコーチということで、小川さんの話の中では、地域での国と民間の施設の間ぐらいの形になると思うのですが、若竹障害者就業・生活支援センター、これはもともと雇用支援センターだったのですが、以前、雇用支援センターが箱型とあっせん型という名前に分かれていました。そのあっせん型のほうですね。つまり、建物がなくて実際の現場でサポートを行うといったことを行っている徳島県の就業・生活支援センターです。もう 1カ所が和歌山県にあります紀南障害者就業・生活支援センターです。ここでは精神障害の人を中心にサポートを行っています。こういった施設における就労支援と、もともと施設だったのが、施設というか、通勤寮だったり、作業所だったりしたところが、公の機関と連携して、こういった雇用支援センターとか、就業・生活支援センターというような名称に変わってサポートし始めた。そういったところの紹介をしたいと思います。

最初に施設における就労支援から説明していきます。【資料 No.3】 最初は三重県の菰野町というところにあります自閉症を中心とした成人の施設です。ここでは施設での作業の工賃は 3000 円とか、4000 円ぐらいだったのですが、企業内作業班という一つのチームをつくりまして、企業の中で作業を行う。要するに企業内授産みたいなものだったのですが、非常にパニックが多い、そして強度行動障害をもつ自閉症の方でも、週に 2 日ぐらい、あさけ学園という施設から

外に出て、簡単な作業ができるのではないかということで、ジョブコーチングという名前ではなくて、ジョブコーディネーター。要するに企業と利用者の中に立ってコーディネートをするという。あまり専門的なシステムティック・インストラクションという発想ではなくて、通訳の代わりにしようという発想から始まりました。今ここの出ている写真はプレハブの板を機械に載せているところなのです。プレハブというそのものは再利用しますので、再利用するときに汚れていたり、あるいは傷がついていたりします。ですから、一度壊したプレハブの板をトラックで運んで、フォークリフトで降ろす、そこまでは業者がやるのですが、それを洗浄したり、もう一回ペインティングしたりするためには機械に載せなくてははいけない。だから、フォークリフトで降ろされたこのプレハブの板を機械に載せるだけの仕事なのです。単なる載せるだけの仕事。しかし、これは人手がいるのです。この機械に載せたあと矢印に従って、ビューっと機械の洗浄機によって洗浄されて、そのあと空気が出て乾かして、そして今度はペインティングで白いペンキをかけるわけです。そしてまた乾いて、乾いたあとに右側に出てきたきれいなプレハブ板を下に下ろす。つまり、4人の人手がいるわけです。非常に強度の行動障害を持っている自閉症の方も物を載せるだけ、物を下ろすだけ、こういったシンプルな仕事はできるのではないかということで、週2回午前中だけ、この企業にジョブコーディネーターがお願いして始まった企業外の実習。ところが、週に2日だけでも、一月の工賃が3000円だったのが、3万円に上がったわけです。となると、彼らの住んでいる菰野町から実家のある名古屋まで、月に一回しか帰られなかった彼らが毎週土日に自分のお金で帰るようになった。それだけではなくて、お土産を買って帰るようになったということで、保護者の方が非常に感動されるようになりました。ここでの様々な試みがなされていて、地方といいますか、菰野というのは三重県の中でも田舎のほうなので、そこから急に一般の企業に入るとするのは難しい。しかし、ジョブコーディネーターがエンクレーブ的に車で移動することによって、こういった外での仕事に就かせるということで、かなりの地域参加、社会参加が広がってきたということは事実です。

二番目にできた富山県富山市のめひの野園ですが、ここも職員の方がジョブコーチセミナーにしょっちゅう来られていますが、ここでは様々な地域に応じた仕事を開拓されています。【資料 No.4】ここはクッキーを作っている写真なのですが、富山という土地柄を生かして、果物の梱包の仕事とか、あるいは私も良く買って帰るのですが、独特の竹があるそうなんです。その竹を炭にして、木炭だけではないんです。竹炭にしてご飯と一緒に炊くと非常においしいということで、私は持って帰ってポットの中に入れていますが、そういった地域の果物とか、木炭づくりの仕事で施設から外に出て働かせようとしています。1人、非常に問題行動のある方がいらっしゃいました。何でもかんでも壊してしまうと。テレビとかを置いておくと、全部壊れてしまう。パソコンも壊れてしまう。機械全部を壊してしまう方に対して、非常に悩まれたものですから、私どもも専門家としてサポートに行って、どういう仕事に就いているかということ、パソコンの分解の仕事に就かしたということです。これは見事にきれいに分解してくれるんですよ。その子の特徴に応じて壊してしまうのだったら、壊す仕事を与えようということで、いま成功しました。しかし、施設だけでの就労支援には限界があるために、富山の障害者職業センターと連携して、以前は連携職域開発援助事業というパターンをとっていたのですが、現

在ではジョブコーチ的な事業、協力機関型ジョブコーチという形でスムーズにしているという事です。

次は AROMA という東京の多摩市にあるところですが、ここは知的障害者の通所の授産施設です。【資料 No.5】施設内作業では AROMA という名前から分かるように、ポプリを作っている。私もたくさんもらいまして、私の家の下駄箱の靴の中には、ここの AROMA 製品がたくさん入っていますが、非常に香りのいいポプリを使った製品を作製されています。しかし、それだけではどうしても工賃には限界があるために、集会場とか、公民館の清掃を外で行うという、いわゆるモービルクルーに近いものです。移動作業班に近いものです。それから最近では資源化センターで働くという、要するにビンを仕分けしたりする仕事に、この AROMA の方が一緒に行って、仕事をサポートして一人で自立していくようにしている。写真を持ってきたのですが、見ていただきたいと思います。一つはここです。八王子の公民館だったと思います。この奥にいる方がジョブコーチで、手前の方をいま確認したら、交通事故による記憶障害がある方なのですが、もともとアスペルガーの気があったのではないかとおっしゃっていました。うちのゼミの学生もここに週 2 回ほど手伝いに行っていて、アメリカのモービルクルーでは 1 人のジョブコーチが 4、5 人の利用者に対して、清掃作業なんかを教えるのですが、AROMA の方に伺ったら、まだそれは早いということで、4、5 人のジョブコーチが 1 人の利用者さんを教えているということです。というのはマンツーマンで教える以外に、うちの学生も一緒に清掃することによって、結果的にきれいな公民館になるわけです。これが汚い公民館であれば、ライバルはいっぱいいますよね。育成会とか、全家連とか、そういった福祉関係の団体に、この業務を取られてしまうから、そういう意味でうちの学生もジョブコーチの勉強が実際にできるということと、この AROMA さんの手伝いにもなっているということで、非常にうちの大学をよく使っていただいているというか、うちの大学のほうもいい勉強になっているという、そういった連携をしています。

それからおしまコロニーですね。北海道にあります。【資料 No.6】ここはいろいろな施設があるのですが、最近では自閉症専門の学校をつくらうという、中に養護学校もあるのですが、それを自閉症専門学校にしようという話が出ているくらい、非常に先駆的な発想をもっていらっしゃいます。非常に有名なのは星が丘寮というところで、TEACCH プログラムという自閉症の一つの指導技法みたいなのをを使ってサポートされているのですが、ここは TEACCH プログラムが成功したために、その発想をもって、地域で就労支援を行っていかうということで、カツオだし製造工場で何人かの知的に重たい、かつ自閉症の方を就職させました。のとやさんというところなんですけど、カツオだしのカツオを洗ったり、梱包したり、運搬したりする仕事なのですが、TEACCH プログラムの構造化という発想によって、次にこれをするという視覚的な刺激を用いて指導されて非常に成功しています。それ以外に函館ですから、いっぱい観光地があるわけです。農産物の博物館みたいなところがありまして、そこに置いてある鍬とか鋤の研磨の仕事させたり、また、お墓の清掃をしたり、レストランの皿洗いななんか、とにかく様々な仕事に対して、できることを見つけています。このおしまコロニーで利用されている業者さんが働いている仕事の一つに、ワークショップはこだて第二分場というのがありまして、ここは菌床きのことって、きのこの栽培の仕事をしています。この仕事はきのこの菌床、要する



にベースが下のほうにあると日が当たらないから出てこないのです。芽が出てきたものを上に持っていく。上のものを下に持っていくとか、そういった湿らせなければいけない部分と、日が当たらないといけない部分、僕は詳しく分かりませんが、そういう芽が出たところを見つけて移動させるような仕事をしています。右側の写真はその菌床きのこでできたきのこ、しいたけとかを洗ったり、梱包したりする仕事をしています。どちらかというと、サポート・エンプロイメントでいうと小規模事業所に近いものなのですが、やはりこういった仕事をすることによって、寮の中の簡単な軽作業での工賃よりも、実際にこれは売れていくために、非常にいい社会参加につながってきている。まだまだ重度の方が多いので、一般の方と一緒に統合された環境というのは難しいとおっしゃっていました。

次に宮崎県の白浜学園ですね。この白浜学園というところは知的障害者の更生施設です。【資料 No.7】ここも宮崎という地域に応じたサポートをしています。一般的に時間に関して、ハワイアンタイムとかいって、7時に待ち合わせしても7時半に来る人がいますけど、この白浜、あるいは日向というところも、そういう時間の発想らしいですね。日向時間というのがあるとおっしゃっていました。私はここに毎年行ってまして、今年は日向からちょっと南の宮崎市にも、志賀さん、小川さんと3人で行ってきたのですが、日向に降りるとだいたい迎えに来てくれないのです。降りて1時間ぐらいぶらぶらしていると、やっと迎えに来て、普通だったら申し訳ありませんとおっしゃるかと思ったのですが、もう来られていたのですねと1時間ぐらい待たせた私に対して、笑顔で迎えに来られるようなところなんです。ですから、仕事に関しては非常にのんびりされています。例えば、温室における園芸作業。この温室も暖かいんです。ですから園芸作業をしながら私は眠くなってしまうような雰囲気のところがあります。それから、宮崎という土地に応じてみかんもぎです。これは季節によってずいぶん違うのですが、みかんもぎの仕事をするによって10万円ぐらい稼いでいる方もいらっしゃるということです。それからラベル貼りの作業、これは受注作業で一般的な作業所に近いのですが、作業所の中でやるとなると、昔と同じパターンですから、一つの工場みたいなものを別の棟に、距離は離れているのですが、そこに設けて働くという形を持っていく。そこで施設から実際の職場でラベル貼りの仕事をするというようなイメージ。これは最終目標ではなくて、まずここでクリアできれば、一つの移行段階として、次のステップへ移るということを考えています。

これはずいぶんずれが出てきているのですが、これはクッキー工房と書いていますね。兵庫県の姫路市にありますルネス花北というところで、これは姫路の駅からすぐの駅の近くの工房です。ここにルネスという姫路の福祉センターの利用者さんが工房でクッキーを作る仕事をしているということです。ここではそれ以外に職員の車を洗う洗車の仕事とか、それから先ほど AROMA さんで話しました資源化センターのように、リサイクルの仕事とか、結局、ルネス花北という総合療育センターをベースにしながら、その職員の人たちが様々な姫路にある企業とか、仕事を探してきて、こういう仕事ならできるのではないかとということのアセスメントして、そのあとに送り出しています。ここは姫路市役所なのです。姫路市役所の1階のロビーにこういう喫茶店を設けていて、ここで知的障害者の人を雇用してみようということになりました。よく見ると、ここに何かありますよね。これは緑の色をしたシールみたいなものです。ちょっと見づらいかもしれませんが、これはどのテーブルにも置いてあります。これはなぜ右側

が写っていないだろう。申し訳ないです。戻しますね。本当はここに写真が入っているはずなんです。こちらに画像を入れてきたのですが、それは厨房のカウンターのところに、この色をした要するに TEACCH でいうジグみたいなものを置いているわけです。厨房のほうからコーヒーが出てきますよね。コーヒーがこの緑色のところに置いてあると、緑色のテーブルのところに持って行く。要するにノンバーバル・コミュニケーションをなかなか取れない方でも、そういった重度の知的障害の方で自閉症の方でも、こういったサポートをすれば、うまく仕事ができる。もう一つはさっきから地域参加とか、地域を巻き込むナチュラルサポートという発想がすごく出ていまして、この姫路もそうです。ここでは知的障害の人が働いているということをお客さんのほうがそれ以上の強引な要求はしないのです。画像は小さいけれども、先ほどのお見せしましょうか。ここです、分かりますね。つまり、この緑色のものと、この緑色のものをマッチングさせて、カウンターで働いていらっしゃる方は知的障害の方もいらっしゃいますし、健常の方もいらっしゃいますが、出すほうもここに出せばいいという発想になるのです。これはよく私も職業カウンセラーを15年ほどやっていたのですが、ラーメン屋で仕事を教えるときにラーメンの金額を360円とかやめていたのです。400円にしよう、300円にしようと、厨房の裏側に100を三つとか書いていて、そういう形で教えていたことがあるのですが、それに近い発想をもっていらっしゃいます。

次は福岡県の北九州市にあります春ヶ丘学園というところでは【資料No.8】非常に特色のある作業科目を設けています。例えばセメント加工科とか、バネ作業とか、外来相談事業、就労相談と日常生活相談。巡回相談事業、そして就労継続相談と地域生活援助。こういう感じですね。ここは先ほどのジョブコーチの話でいうと、コーディネーターの仕事も入っているのです。現場ですぐにジョブコーチングする。要するに現場で仕事を教えるだけではなくて、まず相談をしていって、この施設の中でやっている科目というのは、実際の北九州での就労の現場と同じものを選んでいっているのです。一般的に重度の障害のある人が行う作業種目というのと、陶芸であったり、木工であったり、園芸であったり、紙工、紙の箱を作ったりする仕事が多いのですが、そういった仕事を一概に否定はできませんが、将来の就労につなげていく移行、トランジションを考えていくと、学校から就労への縦のトランジションというものが一つと、こういった福祉施設から企業への横のトランジションというのを考えていかないといけません。その横のトランジションを考えていく場合に、ここの職員が北九州で仕事に就きやすい仕事のアセスメントを先に行っているわけです。そうすると旧八幡製鉄、今は新日鉄ですか、そういった関連の子会社が多くて、セメントの仕事が多かったということで、セメント加工科という科目を設けたわけです。セメントの中にバネが入っているんですね。そうすると強くなるらしい。要するに鉄筋コンクリートの鉄筋の筋が入っているような感じです。これは道路公団、よく道路にコンクリートでできた指標みたいなものがありますよね。ああいうものも作っています。ですから、ここで行った訓練と、そのあとの就労したサポートがスムーズに行くんですね。アセスメントがこうなされて、ここで必要なサポートを実際の器具で行っている。この春ヶ丘学園というのは重度の知的障害の授産施設なのですが、就職率は非常に高いです。就労相談とか日常生活相談の中で、実際にどんどん施設の中に職員の方はいらっしゃらないですね。その職場で問題を解決されています。巡回相談事業というのは、どちらかというジョブコーチのフ

オーアッに近いようなものがありまして、何か問題が起きると遅いので、とにかく月に一回様子を見に行き、小さい問題でも解決していこうとされています。もちろん就労のバックボーンには生活が必要なので、地域生活援助としてグループホームに対する入所とか、先ほどのエンプロイメント・スペシャリスト・プラス・ケースワーカーみたいな、生活全般の一部として就労を考えているという発想がおもしろかったので紹介させていただきました。

今までがどちらかというと授産施設や更生施設、あるいは福祉作業所での就労支援のパターンだったのですが、時代とともにわが国でも、こういった障害者就業・生活支援センターとか、神奈川県に 11 カ所あります就労援助センターとか、あるいは雇用支援センターとか、名前がたくさん出てきて分らなくなってきたのですが、そういった民間の重度の施設から、職業センターのように国の機関の間のサポートをするような機関や施設がどんどんできてきています。

【資料 No.9】 その中で、今回 2 カ所紹介させていただきたいのですが、一つは先ほど申し上げました徳島県の板野郡にあります若竹障害者就業・生活支援センターです。ここは 2 月に私と小川さんで行かせていただいた、大阪でジョブコーチセミナーをやったときにも、私はぜひ来てくれとお願いしたのですけれども、今は職員 4 人で 240 人の利用者を担当されています。私が行った 3 年ほど前は 3 人で 160 人を担当されていました。どうやって、やっているのか聞いてみました。結局、事務所はほとんどいらなくて、電話一本さえあればいいということで、若竹通勤寮という一つの建物を借りています。ですから、通勤寮の職員が中心なのです。その一部を借りているというだけです。障害の種類は問わないということになってはいますが、結果的にはやはり知的障害者が中心になってきています。最近では精神障害者、それと手帳の取れない発達障害者。いわゆる LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガーと四つの障害の方が増えてきているのではないかと。ないかというのは、ジョブコーチの人はそういう障害のことを十分に理解されていないということだったのです。私は何度か行かせてもらったものですから、見させていただいて、あの方はたぶん精神的な障害ではないのではないかと、発達障害ではないかという方が何人かいらっしやいました。ここら辺は残念ながら医療との関係がまだ不十分なので、診断がなされていないけれども就労がうまくいかない。それから本人も、保護者も障害とは認めていないために、こういった機関に来ていないということが今まで多かったのです。ところが、このいいところは自閉傾向を有しているところまでは分かっていたのですが、先ほど区の段階で一番低いとおっしゃっていました。確かにそのとおりで、ここもやはり市町村からお金をもらわないとやっていけないのです。特に鳴門市というところ。最近では学校や在宅していた方からの依頼が中心だったのが、保健所や福祉事務所、作業所、授産施設等から依頼があるために、横のネットワークが自然に構築されてきたわけです。この若竹の通勤寮を一つの研究会の場所として、依頼があるところを全部呼んで、研究会をしていくことによって、徐々にアスペルガーという障害とか、LD という障害のことを皆さんが共通認識できるようになりました。それまでは叱ってばかりいたサポーターたちも、そういった障害があるのだったら、その子に応じたサポートをしていこうという、障害の重い軽いではなくて、その人に必要なサポートは何かということを見つけてから行うということになります。【資料 No.10】 ここでは離職に関して全然否定していないんですよ。ですから、仕事を辞めたら、また新しい仕事を探せばいいじゃないかという発想が強いので、辞めちゃだめだということは全く言いません。すごくタイト

ルが大きいのですが、ライフサポートなんですね。そのうちの一部分が就労支援ということです。発達障害の人の支援というのはもちろん余暇支援とか、ソーシャルスキルのトレーニングみたいなものも含まれるでしょうし、もちろん就労の中には重なっている部分があると思います。しかし、就労だけのサポートをしても、就労のあとの問題、人間関係の調整はなかなかうまくいかないで、まず一つの生活のサポートをしていくという発想から始めよう。生活をしていくためにはお金があるので、就労のサポートをしていこうという発想です。それと本人のニーズに合わせたサービスということで、私も写真を撮らせていただくときに、ジョブコーチの方にいいですかと聞いたら、私に聞いても分かりませんとおっしゃいました。利用者さんに聞いてくださいということです。利用者さんに聞かないといけないのですが、利用者さんに「撮っていい？」というと「うん」、「撮ったらだめ？」というと「うん」というので、分からないんですね。僕は勝手に解釈しまして、オーケーだなと撮りましたけど。かなり本人のニーズということを意識されていますね。もちろんご自分でうまく対応できない場合はアドボケートとして、こういったジョブコーチやそれ以外の保護者の方の意見を聞きますが、かなり本人のニーズを優先していますから、辞めたかったら辞めてもいいという発想は非常におもしろいと思いました。ただ、利用者の数がどんどん増えてきています。そのわりにはサポーターであるジョブコーチの人が少ないということです。先ほどから何度も話していますように、生活支援が核であって、地域で暮らす自己実現を目指すうちの一つとして就労支援を行っているという発想です。ここは非常に立派な建物なのですが、「一太郎」というパソコンのワープロソフトで有名なジャストシステムという会社です。ジャストシステムという会社は「一太郎」で非常に有名になったのですが、「一太郎」というソフトの辞書は ATOK といいますね。これは阿波徳島から来ていると初めて知りました。徳島にあるから「TOK」ですね。「A」は阿波です。だから ATOK にしたということです。ここで清掃する仕事をジョブコーチの人が探してきたのです。ところが非常に重たい知的障害を持っている自閉症の方がここで働くとなると難しいわけです。このジャストシステムそのものと契約ではなくて、この清掃を行っている会社に対して直接入り込んでジョブコーチングされました。徳島の国府養護学校という有名なところがあるのですけれども、その池田分校というところにいらっしゃった関口さんという方、写真を撮っていいですかというと、本人がよければいいということで撮りましたけれど、彼がこのビルを1人で全部を受け持つようになりました。最初はなかなか清掃ができなくて、コンピュータの会社ですから、一つの部屋を掃除して次の部屋に行くためには、カードでドアを開けなければいけないそうなんです。これがなかなか分からないんですね。だから一つの部屋というのに秘密があるそうで、次の部屋に行って、その秘密がばれないようにしなくてはいけないという、手厳しいものがありました。私も中で写真を撮ってはいけないといわれました。外だけなんですね。彼はドアが開いた瞬間にもぐりこんでしまって、いなくなってしまったのです。いつの間にか、どの部屋にいるか分からない。「ミッション・インポッシブル」みたいに探し回らなきゃいけなかったわけです。結局そこら辺の指導はジョブコーチが入ることによって指導したということです。当時はここも3人でサポートをしていたわけです。職業センターと連携をして、今では非常にいい、ここは就業・生活支援センターですから、協力機関型ジョブコーチになっていませんけれども、以前は連携職域開発援助事業でサポートされていました。職業センター

の人たちがいわゆるエンプロイメント・スペシャリストとして、ここの職員の方がジョブコーチとしてスムーズな連携を取りながらサポートされています。

もう一つの就業・生活支援センターであります和歌山県田辺市のやおき福祉会というところ  
です。【資料 No.11】 紀南障害者就業・生活支援センターといいます。この2カ所は私が非常に  
すごいなと思ったのは、それ以外の雇用支援センターや就業・生活支援センターを回ったので  
すが、両方とも利用者のニーズに応じてサポートしていくという発想が強かったのです。学校  
教育でいうと個別教育計画（IEP）みたいなものですね。ここにはジョブコーチの人が8人いら  
っしゃいます。主に精神障害の人を対象にしています。そしてすべて福祉ホーム等からの出向  
職員の運営で、常勤の職員は所長さん1名だけなんです。ですから、それ以外のジョブコーチ  
の人は福祉ホームの職員さんです。就職先を探すのは、ほとんど所長さんで、地方にいらっし  
ゃいますよね、もともと福祉畑をずっとやっていらっしゃったという方なので、地元では名の  
売れている方なのです。ですから、その所長さんがいなくなったらどうしようかというところ  
もありますが、今の段階ではこの人のコネで80%、90%の企業を開拓されて、ジョブコーチが  
それをフォローしているという状況です。サポート・エンプロイメントというエンクレーブ  
ですね。グループ就労が中心です。職種はやはり紀南という、近くに白浜という温泉地とかあ  
るのですが、そこら辺で夏は海水浴客が来たり、ペンションなんかたくさんあるのですが、  
そこで売店での接客やレジ打ちなんかをやっています。ペンションそのものがグループホーム  
になっているので、こんなカッコいいグループホームなんですかと僕は驚いたぐらいです。利  
用者はグループホームで生活する。仕事以外でワーカーズクラブという、その利用者さんが  
余暇を楽しむクラブを設定して、毎月積み立てをしています。そのお金で旅行とかスポーツな  
どのリクリエーションを実施しています。ここはまだ不十分なところがたくさんあるのですが、  
グループホームの世話人さんが昼間はジョブコーチをやっているのです。ですから、ジョブコ  
ーチの人は昼も夜も大変ですよ。もちろん、交代されていますが。【資料 No.12】 この右側の  
方がジョブコーチ兼世話人さんなんです。左側の方は統合失調症ということで、コンピュータ  
のプリンタを分解して、再利用する仕事に就かれていたのですが、行ってすぐに私はアスペル  
ガーと分かりました。彼は養護学校出身なんですけど、どうしても発達段階から障害があっ  
て、やっぱりアスペルガーという障害は、地方では統合失調症とみなされる場合もあるので、こ  
こで職員研修をやらせていただきまして、ここでちょっと TEACCH プログラムの構造化の案な  
どを出すことによって、彼の問題行動が減りました。というのは自閉症とか、アスペルガー  
という発想でなければ、こだわりに関して強制されてしまうんです。プリンタの部品を並べると  
きの箱の位置なんかも、非常にこだわりが強いので、ジョブコーチは全部こだわらないでさせ  
ていたんですよ。また戻しちゃうんです。ジョブコーチの人がこの人はアスペルガー、要する  
に自閉症的なことがあるので、こだわりはそのままにしたほうがいいんじゃないですか、逆に  
こだわりを使ったらどうですかとジョブコーチの研修で説得するのが大変でした。しかし、今  
ではそういった障害があると理解された結果、非常に戦力になっています。ただ、問題がある  
のはナチュラルサポートがうまくいかないところがありまして、グループ就労ですから、ある  
程度は仕様が無いのですが、仕事の出来、不出来によっては、かなり任せていく部分があるの  
ですけれども、ここはある日、私が行ったときに社長さんが非常に私に気を使っていたいて、

仕事はもう大丈夫です、全然問題ありません、戦力になっていきますとおっしゃったあとに、その従業員の方にこうおっしゃったわけです。「ほら、見ろ。こんな子でもこれだけ働いているんだぞ。お前らもがんばれ。」と言われたときのあとのフォローが大変だったんですよね。次の日に私がまた見に行ったときに、昼休みにジョブコーチとこの方だけが食事をしていて、それ以外の方は別の場所で食事をされていた。なんか異様な雰囲気なんですよ。それでジョブコーチの方に聞いたら、その従業員に「あんたがこんな子を連れてきたから、私たちまで社長に怒られたじゃない」と言われたそうです。これはどうすればいいのかなと問題になったのですが、いろいろ調べてみると、そこで働いていらっしゃる方の多くはパート、アルバイト、嘱託、要するに非常勤の方が多かったので、身分が不安定だったのです。そこで障害者といえども、正規に雇用された方が来られると非常に困ると。ですからナチュラルサポートをして、このジョブコーチが徐々にフェイディングしていくことによって、彼は浮いてしまうのではないかということがありました。ここら辺のサポートをしていくときに、単なる仕事を教えて覚えるだけではまずいなということを感じました。最初の小川さんの話で、仕事を教えるだけからナチュラルサポートの段階じゃないかとおっしゃっていましたが、まさにそのとおりで、ここら辺をどのようにサポートしていくかというのは今後のジョブコーチの課題かもしれません。

まとめをしたいと思います。【資料 No.13】これ以外に様々な就労支援を行っている機関も見てきました。それぞれにまだ不十分なところがあるのですが、発想の転換としては施設の中で指導していた職員の方々が一步外に出よう、つまり雇用就労といわれている最低賃金は難しいかもしれないけれども、施設の中だけの工賃よりも、より高い賃金を得られることが一つ。もう一つは彼らが外に出ることによって、周りの人たちも彼らに対する見方が変わってきていますよね。こういった人たちも働いているんだ、働けるんだ。そうすると、アメリカで目指しているような統合された労働環境ということも、将来的には期待できるのではないかと思います。ただし、回ってきた段階で様々な問題があるのも事実です。いま言った紀南雇用支援センターのナチュラルサポートの難しさも一つだったのですが、非常にそれ以外の問題が出てきています。まず、施設内作業から地域への就労支援ということを行って来て、一般就労と福祉的な就労の狭間のサポートが増えてきている。施設の職員がジョブコーチを行っている。しかし、ここなんですよ。方法論がまだ確立されていないのではないかと思います。方法論というのは、今まではシステマティック・インストラクションという重度の知的障害を持っている人たちに対して、分かりやすい指導法というのが非常に役に立ったのですが、それ以外の方法論として、私がいま一番対応しているのがLD、ADHD、アスペルガー、高機能自閉症といった人たちなのですが、最近では大卒とか、大学院卒の方も増えてきているのです。統合失調症とか、躁うつ病とは違うので、発達の段階から障害があったのですが、なかなか理解してもらえていないんですよ。私が今そういう方々にサポートを行っているときに、仕事の問題のサポートが全くないです。作業そのものはできるのですが、そこで働く従業員との人間関係でトラブルってしまう。特にアスペルガー系の方は会った瞬間に「この人、太っている。」とか、「この人、何で髪の毛ないの。」とか、言ってしまうためにトラブルしてしまう。それから非常に好きな女性もいらっしゃるんですね。その女性のところに行って髪の毛のにおいを嗅いだり、その椅子に座ったりという、ストーカー的に家まで行ってしまったりという仕事以外のサポートとい

うか、問題行動をどうやって対応していくかというのが非常に課題になっています。その一つとしてジョブコーチの範囲の拡大といいますか、単なる作業を教えるというような狭い意味でのジョブコーチの一つの職種からコーディネーターとしての役割を果たす、いわゆる専門家として、エンプロイメント・スペシャリストとして、こういうときにはこういうサポートをしていかないといけないというような専門的な知識を持てるようなジョブコーチというのを、これから考えていかなければいけないと考えています。時間がまいりましたので、私の話はこれで終わらせていただきます。途中、様々な不備があつて申し訳ございませんでした。以上です。

NO.1

# わが国における ジョブコーチの実践例

明星大学 梅永雄二

NO.2

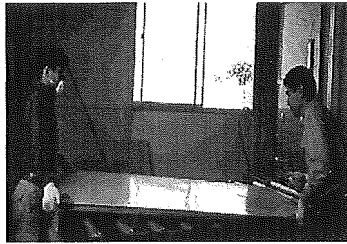
## わが国の就労援助の動向 ～新しい就労支援の形態へ

- ◆ 施設における就労支援
  - あさけ学園
  - めひの野園
  - おしまコロニー
  - AROMA
  - 白浜学園
  - ルネス
  - 春ヶ丘学園
- ◆ 就労支援関係機関におけるジョブコーチ
  - 若竹障害者就業・生活支援センター
  - 紀南障害者就業・生活支援センター

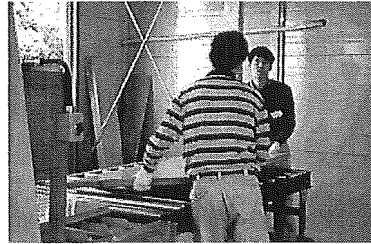


NO.3

## あさけ学園(三重県菰野町)



フレハフ板を機械に乗せるところ



きれいになったフレハフ板を機械から下ろすところ

NO.4

## めひの野園(富山県富山市)

- ◆ 果物の梱包
- ◆ 木炭作り
- ◆ ものを壊してしまう発達障害の人に分解の仕事を
- ◆ 職業センターと連携

NO.5

## AROMA(東京都多摩市)

- ◆ 知的障害者通所授産施設
- ◆ 施設内作業ではポップリを使った製品作成
- ◆ 集会場や公民館の清掃
- ◆ 資源化センターでのジョブコーチ

NO.6

## おしまコロニー (北海道函館市,上磯郡)

- ◆ 星が丘寮におけるジョブコーチが支援
- ◆ カツオだし製造工場
- ◆ 鍬や鋤の研磨
- ◆ お墓の清掃
- ◆ レストランの皿洗い

NO.7

## 白浜学園(宮崎県日向市)

- ◆ 知的障害者更生施設
- ◆ 地域に応じたサポート
- ◆ 温室における園芸作業
- ◆ みかんもぎ
- ◆ ラベル貼り作業

NO.8

## 春ヶ丘学園(福岡県北九州市)

- ◆ 特色のある作業科
  - セメント加工科、バネ作業
- ◆ 外来相談事業
  - 就労相談と日常生活相談
- ◆ 巡回相談事業
  - 就労継続相談
- ◆ 地域生活援助

NO.9

## 愛育会(徳島県板野郡)

- ◆職員4人で240人の利用者を担当
- ◆事務所は通勤寮を使用。
- ◆障害は問わないが、利用者の8割が知的障害者
- ◆そのうちの何人かは自閉的傾向を有している
- ◆財源は市町村から資金をもらっている
- ◆依頼先は学校か在宅者が中心だったが、保健所、福祉事務所、作業所、授産施設等からの依頼がある

NO.10

- ◆離職もOK
- ◆人生全般のサポート
- ◆本人のニーズに合わせたサービス
- ◆課題は、利用者の数に比べ職員の数が少ない。
- ◆生活支援が核であり、地域で暮らす自己実現を目指している